みんなで

のりこえよう通信

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　校長室から

令和　2　年　5月　7日　　NO.15

一本の道

　「道」という言葉にいろんな意味を重ねたりします。「これが俺の生きる道」とか「こんなことになるなんて。どこで道をまちがえたのか」など。剣道とか柔道とか、スポ－ツにその文字が使われていたりします。

そもそも、道は、どうしてできたのか。

古くは「すべての道はロ－マに通ず」と言われて、ロ－マ帝国全盛時代、その文化の中心地めがけてたくさんの人が移動したおかげで道ができました。東洋では、シルクロ－ドが典型でしょうか。西洋と東洋の交易路として栄えたシルクロ－ドでした。そのシルクロ－ドの終着点、日本でも道の出来方は同じです。有名なところでは、平安時代、熊野大社に詣でようと時の天皇や上皇などが、たくさんの家来を連れて歩いた道が、「熊野古道」として残っています。春木の町で見れば、紀州街道がそれにあたるでしょうか。岸和田や和歌山の殿様が参勤交代(何かな?調べよう!)で、江戸を目指したときに通った道です。明治大正時代になって、紀州街道の存在は益々大切になり、紀州街道沿いに店を出すことは、一つのステイタスとされていたのでした。

　小学生のころ、奈良の明日香にある石舞台古墳に連れて行ってもらいました。車に三時間近く揺られて、うんざりした先にこの古墳を見たとき、その異様さと威容さに感動して、本格的に歴史を勉強しようと決意しました。

　私の中では、石舞台古墳は遠いところにあると思い込んでいました。

二年前、当時の六年生と石舞台古墳に行って驚きました。南阪奈道路という高速道路が整備されて、あっという間に到着。

　これに味をしめて、暇を見つけては明日香へ。自宅からは、三十分ほどで到着するのです。岸和田へ行くのとあまり変わらない。石舞台古墳はもちろん岡寺や橘寺、亀石や飛鳥寺と季節ごとの景色を楽しみながら歩くことが至福の時間です。

しばらくは、自粛しますが、落ち着いたら真っ先に飛んでいこうと思っています。一本の道のありがたさをかみしめながら。